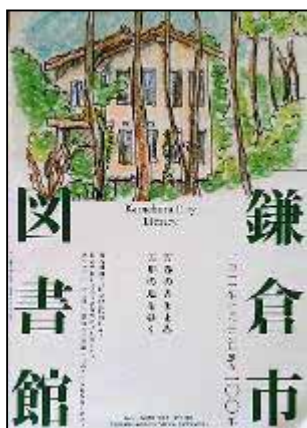


図書館とともだち

図書館とともだち・鎌倉 おしらせ No.146

2011・08・31



鎌倉市図書館百周年ポスター

鎌倉市図書館百周年 記念号

CONTENTS

教育長「とともに歩む鎌倉図書館」 百周年記念式典報告 100周年記念事業実行
委員長から 記念講演会報告 展示会・原画展報告 百年史編纂専門委員メッセージ
記念式典を終えて・図書館から TOTOMO・百周年への取り組み 事務局から

とともに歩む鎌倉図書館

鎌倉市教育長 熊代 徳彦



鎌倉市立図書館設立 100 周年の記念行事も無事に終わりました。その間、7月 20 日を迎えるまでの日々がどれほど重く、遠く感じられたことでしょうか。ご尽力くださいました関係者の皆様に心から感謝を申し上げたいと思います。中でも、図書館とともだちの皆様には、鎌倉市の図書館職員と同じような姿勢で、ボランティア精神をもって内に外に八面六臂の活躍をしていただきました。ここでは過去形で表現していますが、これまでも、これからも、まだまだ同様に、ご活躍をしていただかなければなりません。鎌倉図書館を行政と市民の共同で、今以上に発展

充実させるためにもその必要があります。次の 50 年、100 年を見据えた長期の展望を持って、夢膨らむ図書館にしていきたいものです。またそうしなければなりません。

1872 年(明治 5 年)4 月に、当時の文部省が東京湯島につくった東京書籍館が、近代的な図書館の始まりと言われていました。福澤諭吉などが、外国の図書館の様子を紹介したため、当時の文部省に勤めていた市川清流という人が、「りっぱな人間をつくるには、図書館に勝るものはない」と考え、ロンドン図書館などを調べた上、湯島聖堂の講堂を借りて、ヨーロッパ式の図書館を開いたのが、東京書籍館ということです。(東京書籍館の件。小峰書店 昭和 39 年(1964 年)日々の研究事典 参照)

先人達が苦労を重ねてその礎を築かれたように、今に生きる私たちは、またそれ以上の努力をしていかなければなりません。今、図書館基金の条例化を目指してその準備段階にあります。議会皆様全員のご賛同を得られるような内容にしていくべく、事務局は知恵を結集しているところです。これからも県下に誇れる、小粒ながらも内容の充実した、利用される方々が使いやすい、鎌倉市立図書館を皆様とともに守ってまいりたいと思います。ご協力を切にお願い申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

百周年記念式典報告

鎌倉市図書館は、神奈川県内の公立図書館としては初めて百周年を迎えました。7月20日10時半から鎌倉生涯学習センターにて記念式典が執り行われました(主催:鎌倉市教育委員会)。

式典は熊代徳彦教育長のご挨拶に始まり、ご列席の方々が祝辞を述べられました。



松尾崇鎌倉市長は、「明治44年から4つの時代にわたり市民からの寄贈や支援のもと発展してきた図書館が百年を迎えたことはすばらしい。世界遺産を目指す鎌倉市にとっても図書館は大切なもの。次の百年に向けても応援していきたい」と力強いお言葉。



伊東正博鎌倉市議会議長は、「東郷慎十郎氏の寄贈によって創建された鎌倉の図書館は、市民の熱意と志によって築かれ市民に支えられて存在し続けた歴史がある。関東大震災後の再建の際にも間島弟彦氏の遺志を受け御夫人の愛子さんの寄付で再建され、街づくりのモデルとなった。市民と共にあり続けた図書館の更なる発展を祈る。」また、「市民に愛される図書館は、職員の力によるところも大きい」とし、図書館は情報提供・資料収集と共に発信の場として大きな役割を持つものだと言った嘗ての館長・澤壽郎さんの功績にも触れられました。



長尾真国立国会図書館長は「公共図書館は情報や資料収集だけでなく、地域の特性に沿ったサービスが必要。現在は書籍電子化の過渡期にあるが、MLA連携の実現が期待される一方課題も多い。どんな時代でも人の繋がりが大切。市民に支えられ市民と共に

これから鎌倉の図書館が発展していくことを期待する」とお話されました。

塩見昇日本図書館協会理事長は、「学校の中に作られた図書館がこのように発展してきたことは意



味深い。関東大震災で全壊した鎌倉の図書館が東日本大震災の年に百周年を迎えたというのは印象的だ。戦後の何もない時期には文士たちが貸し本屋を開き図書館不在の間

を埋めたのは鎌倉らしく、また、その市民のために専門職の司書が高い位置づけで置かれていたことは特筆すべき。今後もますます他市からも精神的支えとなる図書館として発展して欲しい」とエールを送られました。「市民の手で愛される図書館を作り、市民と向き合いながらやってきた図書館が市民と共に百年史を作ったのは印象深い」と、百年史編纂についてもその意義を称えて下さいました。



林秀明神奈川県図書館協会長は、県立図書館との連携協力のもと歩み続けた鎌倉市図書館の百年を祝い、総合検索システムや県立・他市町村図書館との連携

の先駆けは鎌倉の図書館であることを話され、東郷氏の精神が今も受け継がれている鎌倉の図書館の発展を祈るとお話を締められました。

式典は、来賓紹介の後、図書館に貢献した個人や会を表彰。東郷慎十郎氏の孫・輝久さんご夫妻を筆頭に、間島弟彦氏(関係者の方は当日欠席)、そして11の団体が表彰され、午前の式典を終えました。

午後は作家藤沢周氏、文化庁長官近藤誠一氏の講演会があり、200余名の方々が聴き入りました。

式典にはTOTOMOから19名が出席しました。

台風接近との予報の中、心配されたほどの荒天候にもならず、午後4時にはすべて無事終了。

なお、地下ギャラリーでは24日まで百周年記念展示を開催。貴重な展示資料が多く、5日間で888名の方が来場されました。(齊木まき子)

*註・MLA連携: M (Museum 美術館・博物館) L (Library 図書館) A (Archive 文書館・公文書館) の連携

当日ご列席の方々

国立国会図書館長	長尾真氏	鎌倉市長	松尾崇氏
日本図書館協会理事長	塩見昇氏	鎌倉市議会議員	伊東正博氏
神奈川県図書館協会会長・神奈川県立図書館長	林秀明氏	鎌倉市教育長	熊代徳彦氏
衆議院議員	浅尾慶一郎氏（代理）	鎌倉市教育委員長	林雅巳氏
神奈川県議会議員	中村省司氏	鎌倉市教育委員長職務代理者	山田理絵氏
	早稲田夕季氏	鎌倉市教育委員	朝比奈恵温氏
（当日ご欠席の大石尚子参議院議員からは祝電が届けられました）			下平久美子氏

当日会場には、市議会議員、図書館協議会委員、社会教育委員等、鎌倉市図書館の招待を受けた多くの皆様が来館されました



感謝状を受け取る TOTOMO・黒瀬聖子



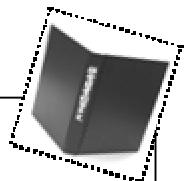
表彰された方々

東郷慎十郎さん（お孫さんの東郷輝久さんご夫妻が表彰式にご出席）
間島彦彦さん（関係者欠席のため、後日表彰状を持参）

鎌倉アカデミアを伝える会 / 鎌倉視聴覚協会 / 鎌倉市点
訳・赤十字奉仕団 / 鎌倉朗読・録音奉仕会 / 郷土資料を
読む会 / CPC の会(湘南・鎌倉生涯現役の会部会) / 玉縄の古文
書を読む会 / 図書館とともだち・鎌倉 / 蟲の会 / 安田三郎
写真を保存する会 / りんどう(敬称略・表彰順)

鎌倉市図書館開館 100 周年記念事業実行委員会の仕事が一段落。
実行委員長・和田さんから、式典を終えて現在のお気持ちを伺いました。

苦しい言い訳と反省



百年史編纂に式典企画・準備、PR 活動にと八面六臂の活躍！市民実行委員のみなさん。左から和田さん、深尾さん、曾原さん、野田さん、阿曾さん

『鎌倉図書館百年史』発刊に至るまでの作業はかなりしんどいものでした。それでも結果がよければ、いかなる労苦も良き思い出になるのですが、第三者の評価はこれからとして、自分としては満足のいく内容にはなりません。その最大の理由は、複数の書き手による分担執筆になったため、全体的に統一感に欠けるものになってしまったことです。

分担執筆というかたちをとっても、この本の編集・発行に特化した組織を実行委員会とは別につくり有能な編集長をおくことができれば、そうした弊害を避けることができたでしょうが、

実際には、記念式典・講座・PR 活動などの企画・実施と出版のための執筆・編集作業を実行委員会が同時並行的に遂行せざるを得ませんでした。

編集を云々する以前に、内容の良し悪しを左右するのは執筆者の力量であることは言うまでもありません。しかし、専門家・研究者に原稿を依頼するための謝礼金は予算化されておらず、図書館職員(OBを含め)主体で執筆するという選択肢も図書館側からは提示されていませんでした。材料をそろえて業者に作ってもらおうという予算(委託費)もなく、実行委員および職員による分担執筆となりました。

でも、それにしてもよくできたなと思っています。ひとえにお二人の専門委員の先生のおかげです。恐らく読む人によって箇所は違って、必ずここはいいとか面白いというところはあると思います。ザッとでいいので、一応、最初から最後まで目を通していただければありがたいです。(和田安弘)

午後には、ホールにて作家 藤沢周氏、文化庁長官近藤誠一氏の記念講演会が開催されました。

『グーテンベルクか、グーグルか』
藤沢周氏講演「本のある街角から～本・出版・3.11～」を聴いて

岡林 馨



講師：藤沢周氏

先般開催された鎌倉市図書館創立 100 周年記念式典に参加し、鎌倉に住む芥川賞作家、藤沢周氏による「本のある街角から～本・出版・3.11～」と題する講演を聴く機会を得た。

このなかで藤沢氏はまず大震災後の社会における文学の意味について話された後、「本」をめぐる最近の状況についての熱い思いを語られ、来場した多くの読書を愛する市民には印象深い講演であった。

私がここであらためて記すまでもなく 15 世紀なかばのグーテンベルクによる活版印刷は、中世以来の主としてキリスト教修道院で羊皮紙に書かれた「写本」から、活字による書物の大量生産を可能にする画期的な情報革命であった。

それから 500 年以上を経て、「IT 革命」すなわちコンピューター利用による新たな情報伝達手段の誕生は、原稿の作成、保存、さらに流通の分野にまで、出版者と読者がともに歩んできた「本」の文化と歴史に影響を与え、読書界の直面する大きな課題となっている。

藤沢氏はこのような時代の流れを容認しつつ、紙と印刷による「本」の醍醐味について語り、「本」でなければ味わえない魅力を私たちに伝えてくれた。そして同じ鎌倉に住んだ文芸評論家、故江藤淳氏の著作『なつかしい本の話』冒頭の「アーサー王騎士物語」のなかで夏目漱石の著作『菴露行』にふれ、「本」だけが持つ独特のたたずまいを話された。

少々長くはなるがここで同書から引用してみよう。

「本というものはただ活字を印刷した紙を綴じて製本してあればよい、というものではない。つまり、それは活字だけででき上がっているものではない～かつて私の心に忘れがたい痕跡をのこし、そのままどこかに行ってしまった本のことを考えていると、表紙のよごれや、なにを意味しているのかよくわからなかった扉の唐草模様、それに手にとったときの感触や重みなどが、その本の内容と同じくらいの深い意味を含んで甦ってくる。」

「本」を愛する者にはまことに滋味豊かな言葉であり、おそらく同感される方も多いのではないだろうか。思えば私の狭い書斎に置かれた本にもそれぞれ忘れ難い思い出があり、その表紙、挿絵、装丁などやそれを初めて読んだ頃の自分や家族の状況に思いをいたすとき、えもいわれぬ懐かしみと愛着の心が湧いて、しみじみとした満足感にひたされる。これはまさしく「本」でなければ味わえぬ喜びといってよい。

また電子書籍には、たとえば省スペース化などに始まる多くの利便性があることは否定できないが、その一方で印刷本には、たとえば脚注や索引などランダムアクセスを可能にするという利点もある。そうだとすればそれぞれの優劣を決めるのはまだ尚早であろう。

このたびの藤沢氏の講演は私にとり、読書のもたらす幸せや満足は、ただ単に効率性や経済性だけではないことをあらためて再考することになる良い講演であった。

アンケートから

図書館が今に至るまで、いろいろな作家さんの協力や人の助けがあってできているんだと初めて知った。

歴史的資料の発掘などに力を入れ、保存展示を行ってください。

3・11 を経験し、また若者の電子図書、インターネット時代にあつて「本質を考える力の大切さ」を再確認した。
(藤沢さんの講演を聴いて)

全ての展示に感動しました。定年後の生活で地元について勉強しようと思いはじめっていますが、大変刺激を受けました。今後も図書館利用させていただき、何か恩返しをしたいと思っています。

式典の最後を飾る近藤文化庁長官のお話。質疑応答の最後まで聴き入った2時間でした。

文化庁長官 近藤誠一氏講演「文化による日本の再建 - 都市の役割」を聴いて



講師：近藤誠一氏

近藤氏は、1972年に入省されてから、駐米公使、ユネスコ日本政府代表部の特命全権大使、デンマーク大使等を歴任され、昨年7月に文化庁長官になられた。38年間の外務省在籍期間の半分を外国で過ごされたという。長い海外生活で外から日本を見てきた経験から、文化と図書館について大変興味深いお話をしてくださった。

日本は、世界一の長寿国で経済大国でもあり日本の文化の地位は高い方なのに、国民が幸福だと思っているかどうかという幸福度の調査では極めて低く世界で90位という。しかも、文化に対する国家予算や寄付金は、先進国中かなり低いとのこと。これは戦後の経済成長の偏重で、経済効率ばかりを重視し、文化・芸術が軽視されてきた結果だと、いくつかの統計を示してお話された。しかし、「世の中が疲弊し格差が叫ばれている今、国民の意識の中に物の豊かさだけでなく、心の豊かさを求める人が増えてきている。心を豊かにするには文化・芸術が必要であり、文化の力を知って生活の中にそれを取り入れていくことが大切だ。こんな時こそ図書館の存在は大きい。図書館は情報の宝庫であり、記憶遺産としての図書館は重要な役目を持っている。もっと図書館を活用していくことだ」と近藤氏はおっしゃる。このお話は、“図書館応援団TOTO TOMO”の一員として、心に強く残った。

心が豊かになるということは幸せに繋がっていくのだと思う。その点からも「文化(図書館)に対する市の予算を増やすことだ」との長官の言葉には説得力を感じた。また、文化を発展させる為には国のサイズでは大きすぎる。都市の大きさが丁度良いというお考えの近藤氏は、前の藤沢周氏の講演で使われた「鎌倉DNA」をさっそく取り入れ、「鎌倉DNAの出番。固有性を持ちつつ、世界を見ながら連帯していくことが大切だ。誇るべき文化資産が沢山ある鎌倉は、他市の先駆けとして文化を発信し続けて欲しい。その為にも小さい時から本物、一流の芸術を見せること」とも話された。この言葉は、鎌倉市民としてしっかり受け止めたいと心から思った。この鎌倉に住んでいることを幸運と思い、常に文化・芸術に興味を持ち、学び続けていきたいと思う。

お話の後、会場からの質問にも丁寧にお答えくださった。「行政の役割は？」との質問に対し、予算をつけたら中身には関与せず文化が自由に花開くことができるよう環境整備をすることに徹するべきであるとお答えになった言葉が印象に残った。

中学・高校と鎌倉で過ごされたという近藤長官。鎌倉図書館百周年のこの日にこの貴重なお話を伺えたことに感謝したい。一時間余りのお話の中で、文化の役割、都市の役割、図書館の役割など文化の大切さ、すばらしさを教えて頂きました。ありがとうございました。(水岡 やす子)

行詰まり感が漂う日本の社会情勢を改革していくためには文化への意識改革が必要であることが伝わりました。(近藤さんの講演を聴いて)

かまぼこ型の時に「鎌倉こども風土記」を借りました。御成小に通い、市民座で「101匹ワンちゃん大行進」を観ました。東映や笹目の松竹映画館のも。日活の映画館に大きな「梶光夫」「石原裕次郎」の看板があったのを思い出します。

今年だけでなく、機会があればまたこのような展示会を開催して欲しいです。次の100年に向けてすてきな図書館を目指して下さい。

アンケートから

鎌倉市図書館百周年記念展示「鎌倉市図書館 100年のあゆみ」展 (2011年7月20日～24日 於：鎌倉生涯学習センター地下ギャラリー)

A コーナー：写真と資料でたどる 100 年

東郷慎十郎氏の写真に迎えられ、創立時の資料から現在までの歩みが一目でわかるコーナー。



東郷慎十郎氏 (写真提供：井上仁氏)



関東大震災時の鎌倉を記録する古写真や公文書類(いずれも鎌倉市図書館所蔵)が展示されました。(協力：なまずの会)



間島弟彦氏

B コーナー：鎌倉市図書館の貴重資料



左奥から横山隆一氏原画、錦絵、古地図

TOTOMO との協働事業(2008年～2010年実施)紹介パネル(図書館作成)



古地図、錦絵、鎌府勝景、狭衣物語、今回初公開の横山隆一氏原画、佐草氏のスケッチ画など、こんな資料が図書館にあったなんて！とみなさん大感激。

C コーナー：市民とつくる図書館

TOTOMO の紹介パネル



式典で表彰された図書館関連11団体によるパネルと資料での活動紹介コーナー。

記念展示の会期中、これら11団体は受付当番として図書館のサポートにも入りました。

D コーナー：子どもとつくる未来の図書館 詳細は次ページで！

図書館行事「小学生によるデジカメ写真絵本作り体験」紹介、高校生のポップ大賞展示、そしてTOTOMO担当の鎌倉&返子在住作家の原画展。赤ちゃんからご高齢の方まで、楽しんでいただきました。

展示会レポート

展示会DコーナーではTOTOMO企画の「原画展」開催！



会場風景

syocaさんから
お借りした書架

出展してくださった作家のみなさん

- 阿見 みどり
 - 飯野 和好
 - 伊藤 正道
 - 坂井 教人
 - ささめや ゆき
 - せな けいこ
 - 瀧川 虹風
 - 長野 ヒデ子
 - 西巻 茅子
 - むかい ながまさ
 - 和歌山 静子
- (50音順・敬称略)



原画展チラシ・パンフレット
イラスト/古矢史於さん

本物はちがう！どんなに印刷技術が進歩しても、原画が語りかける力には及びません。大勢の人にこのパワーに触れてほしいです。よかったです～ (H.M.)

翔平



来場記念“みんなでつくる本”
図書館で永久保存します



SONGBOOK Café
さんからは、CDをたくさんお借りして、試聴コーナーを作りました。
みんなうっとり

今回の記念展示では、来場下さった皆さんに本や図書館への気持ちを込めたメッセージや絵を書いて頂き、世界で一つの本が出来上がりました。50年、100年後にもきっと、私たちと同じ思いを未来につないでもらえますように！

(T.K.)

翔平

原画展会場作り、“みんなで作る本”の製作、チラシやパンフレットのイラスト…。TOTOMO会員2世の若い二人もがんばってくれました！

今回、鎌倉市民として図書館の100歳を記念する展示会の企画へ携われて大変嬉しかったです。今までは、住んでいるだけでしか関わらなかった故郷に、こういった形でお手伝いすることができたことは自分にとっての誇りとなりました。今後この街にかかわる企画がある時には、積極的に参加したいと強く感じました。(高橋 翔平)

翔平

図書館100歳、おめでとうございます。お祝いの展示に関わらせていただいたこと、嬉しく思います。鎌倉の作家さんにお会いしたり、図書館の今まで行ったことのない場所にお邪魔したり、はじめて巨大な本を作ったり...様々な出会いがありました。展示準備や制作では、実現できなかったことや予算・時間の制限など、多くの葛藤もありました。そうしたことを含めたくさんのお話を学びました。どうもありがとうございました。(古矢 史於)

期間中、5人の高校の先生が初任者研修として、12人の鎌倉高校生がNPO体験として、参加していただきました。TOTOMOスタッフとともに、会場係として大活躍！TOTOMOスタッフは、搬入・搬出を含め、のべ43名でした。みなさま、お疲れさま！

これからも発展を願う

相模女子大学 大東文化大学 池田 政弘
司書・司書教諭課程 非常勤講師

鎌倉図書館創立 100 周年記念誌並びに盛大な式典が行われおめでとうございます。

式典当日、来賓の方の祝辞のなかに『鎌倉図書館百年史』についてふれられ、行政と市民の協同によって編集されたとの言葉がありました。このことは、今日の図書館が市民に開かれた自由で、気軽に利用出来る施設になっているからこそ協同作業が成立することができるのではないかと考えます。

資本主義社会の生産の三要素である「土地」「資本」「労働力」にたとえて、図書館の三要素として「施設」「人(職員)」「資料」から図書館は成り立っています。そこに市民である「利用者」がいて、図書館としての構成が成り立ちます。

図書館の三要素の一つである「職員」こそが、図書館の良し悪しの評価となります。一人の職員の接遇の悪さによって、全体が悪く見られてしまいます。それが一般的に公務員は高圧的、たかびしゃ、不親切、意地悪、冷淡などの言葉が返ってきます。

利用者には間違っただけを主張する人も多くいますが、真剣に、謙虚にそして丁寧に聞きながら対応する事によってこそ、図書館法第3条による「図書館奉仕」が十分になされることになるのではないのでしょうか。なんととっても「職員」こそが宝なのです。そして、図書館におけるサービスは「利用者を知る」「資料を知る」「利用者と資料を結びつける」ことによって充実した市民へのサービスが可能となると思います。そのためには職員は常に体系化され、計画的に実施される研修が求められているのではないかと思うところです。

インドの図書館学者であるランガナータンの「図書館学の五法則」のひとつ「図書館は成長する有機体である」ことこそが、100 年という年月を超えて、今日市民に開かれた鎌倉の図書館になっているものと思います。

これからも市民の皆様のお力添えのなか、ますます鎌倉の図書館の発展を願っております。

次の百年へ向けて

横浜女子短期大学図書館 奥泉 和久

『鎌倉図書館百年史』(以下「百年史」)の編集に携わってきたもののひとりとして、少々感想めいたことを記しておきます。

この「百年史」の特徴は、3つあると思います。第1は、図書館の歴史を記述する方法としてオーソドックスなスタイルを選んだこと。第2、将来への展望(最終章 - これからの鎌倉図書館)が記されていること。そして、第3に、市民(公募による市民委員)と図書館員とが協働で編集・執筆にあたったことです。

第1と2は、これだけでは特徴的とはいえないかもしれませんが、3点目の市民参加の意義を生かすうえで、重要な意味をもちました。つまりこういうことです。これまでの鎌倉図書館の歩みはどうであったのか、そして、これからの図書館はどうあるべきか、必ずしも十分ではないにせよ、市民と図書館員とが論議する機会を得たことです。これによって図書館の歴史を編む行為が、それにとどまらず、図書館活動の一環としてとりくまれることになりました。

ところが、市民と図書館員とでは図書館に対する見方が異なることが少なくない。往々にして図書館経営、運営・サービスについての評価が分かれたりもします。それをどうやって合意形成していくのか。そのプロセスはそう簡単ではなかったはずです。

歴史に向かうときに大切なことは、現在の位置に立って、過去を再構成してみることです。同時に、現在の実践が将来にいかなる結果をもたらすのか、想像力を働かせることです。歴史的なものの見方とはそういうことだと思います。この「百年史」でそのことを、市民と図書館員が共有できたことは、とても大きな財産となったはずです。

さて、この「百年史」が、将来の鎌倉市民に向けた図書館づくりのメッセージとなっているかどうか。ここから先は読者のみなさまのご判断を仰ぐ次第です。



百周年記念事業を担当された図書館の中田さんから、式典を終えてのご報告をいただきました

鎌倉市図書館開館百周年記念式典及び記念展示についてのご報

鎌倉市図書館開館百周年記念事業実行委員会事務局 / 腰越図書館長 中田 孝信

TOTOMO の皆様、いつも図書館事業にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。そして今回も表記事業に多大なるご協力をありがとうございました。貴重なスペースをいただいて簡単にご報告させていただきます。

まず記念式典ですが、台風直撃は避けられないと覚悟をしていますが、ここは鎌倉！やはり神風が吹き進路を変えてくれたことにより悪天候による影響も少なく、おまけにオーバーブッキング気味だった記念講演の申込者も適度に減らしてくれました。

結果的には、午前中の式典は招待者中心に141名(スタッフ含む)、午後の講演は205名(同)の参加でした。

私は舞台の裏側の方にいたため教育長の挨拶、市長・市議会議員・国立国会図書館長・日本図書館協会理事長・神奈川県図書館協会会長のご祝辞と何も聞いておらず、内容のご報告はできませんが、登壇された方々が本当にお忙しい中、代理でなくご本人にご出席いただき、暖かいご祝辞をしてくださったと聞いて、本当にありがたく感じました。

また、皆様、記念展示の内覧においても熱心に丁寧に見てくださり、最後に『みんなで作る本』にもお言葉をいただけたのは最高のプレゼントだと感じました。

計画当初、県立図書館でもお呼びしていないお歴々を本当にお呼びできるのか不安で一杯だったのを思い出すと、その実現に喜びもひとしおでした。

さて記念講演については、藤沢周氏・近藤誠一氏とこれまた著名なお二方をお呼びできました。これも皆様のおかげです。

私はお二方の講演も聞いていませんが、アンケート結果を読むと両氏とも大変好評で、「鎌倉にもこんなに素晴らしい人がいたんだ」とか「もう少し時間があるとよいと思いました」とか書かれており、大変嬉しく思いました。

展示については展示期間が短いというご意見をいただけるような内容豊富な展示となったと思います。作家さんへの交渉、展示品の作成から前日の搬入・展示作業・受付当番等、皆様方にご苦労いただいた結晶がアンケートに表れています。アンケート結果についてもお読みいただく機会を考えていますのでお楽しみに。入場者数はお目出度く8のぞろめ 888名でした。

式典・講演・展示と参加してくれた知り合いの図書館長たちが皆、やはり鎌倉は違う、鎌倉だからできたこと、と褒めてくれたことが大変嬉しく感じたことでした。館長たちの言う「鎌倉だから」の中には、市民と共に歩んできた図書館、今も歩んでいる図書館が念頭にあるからです。その言葉をいつまでも言われるように大切にしていきたいと思えます。

何も聞いていない私の報告は報告になっていません。今回の事業、式典・講演・展示の記録を私自身も首を長くして待っています。

今後とも、図書館へのご支援をよろしく願っています。



鎌倉市図書館百周年を記念して、書籍、絵葉書発売！(市内図書館、島森書店、たらば書房、松林堂書店でお求めになれます)



『絵葉書で見る鎌倉百景』

A4版 72ページ 1500円
約100年前の鎌倉の絵葉書集。解説文と共に、古の鎌倉にタイムスリップできます！

「復刻絵葉書『鎌倉玉手箱』」(第1集～第5集)

1集6枚組・各300円

『絵葉書で見る鎌倉百景』から厳選30枚をピックアップ！



鎌倉市図書館開館100周年記念事業実行委員会編集 / 鎌倉市教育委員会、鎌倉市中央図書館発行

TOTOMO は鎌倉市図書館開館百周年とどうかかわってきたのか？

1998年1月に発足したTOTOMOが5周年事業を行ったのは2002年のことでした。前年に起きた9・11事件を機に、改めて図書館の存在意義をかみしめた私たちは、「わたしたちの平和な明日を紡ぐために」をメインテーマに記念事業を行いました。



その後、図書館や例会の場で熱く語られ始めた話題が「TOTOMOは鎌倉市図書館開館百周年にどう取り組むのか」でした。2002年暮れに起きた生涯学習部市長部局移管問題で大揺れに揺れた当会が、ひとまず落ち着きを取り戻した2003年秋頃のことです。それからの主な動きを以下時系列で記します。

時 期	内 容
2003年10月15日 「図書館員と話そう！」 会報65・66号(2003.10.・11.)	「図書館員と話そう！」において、百年史編集についての意見が出る。 (「鎌倉の図書館でしかできないことをやってほしい」というTOTOMOの意見に対し、図書館員からは「財政的にかなり厳しいので実現できるかどうかは確約できない。図書館員だけでは無理なので市民参画を得て別枠予算にて企画をしたい」との話があった。)
2004年3月25日 「図書館協議会」 会報71号(2004.4.)	TOTOMOが、図書館に対する意見・要望の中で百年史について発言した。 図書館が、百年史について協議会の中ではじめて言及した。
2004年10月6日 「図書館協議会」 会報76号(2004.10.)	図書館から、図書館内において百周年記念行事と記念史が検討されていると報告があった。
2005年3月23日 「図書館協議会」 会報82号(2005.4.)	協議会委員から「歴史ある鎌倉の図書館をより多くの市民の方々に知っていただく機会と捉え全市的な取り組みはできないものか」「百周年には、市民の力も加え、半年から1年の期間で催しを企画できないか」「図書館を中心に、世代を超えた交流もできればよいのではないか」等々の意見が出された。
2005年5月18日 「中央図書館長との懇談会」 会報84号(2005.6.)	TOTOMOから百周年についての意見が出され、図書館からは「記念事業につき協議会に諮問中であり、年内に答申を終え、その後、来年度の予算化に取り組みたい」との説明があった。
2005年6月15日～8月26日 「TOTOMO内話し合い」	「図書館協議会」「懇談会」を受け、TOTOMO例会などで百周年記念事業について度々話し合いが持たれた。答申案についても意見交換した。
2005年8月26日 「図書館協議会」 会報86号(2005.9.)	TOTOMO内で話し合われた答申案を協議会に提出した。協議会では、その答申案をもとに、年内の答申を目指し他の協議会委員からもいくつかの提案がなされ話し合われた。
2005年11月24日 「図書館協議会」 会報89号(2005.12.)	「鎌倉市図書館開館百周年記念事業について(答申)」<目的と理念> <記念事業の具体案> 右ページに記載
2007年3月28日 「図書館協議会」 会報104号(2007.4)	同3月28日、第1回百周年事業準備委員会開催。公募による委員4名。図書館より今後増員を検討との報告があった。

< 目的と理念 >

- 1 図書館は、知る権利や学ぶ権利を保障する施設であり、また、私たち市民の生活の情報源として誰もが無料で平等に利用することができる大切な財産です。 ……【真実を学び知る権利の保障】
- 2 図書館は、基本的な資料の充実はもとより、長年にわたり蓄積してきた資料を保管し、文化を次の時代に伝える大きな役割を持っています。ことに私たちの住む鎌倉においては、古都にふさわしい特色ある図書館となることが大切です。そのためにも、市民が図書館をより身近に感じ、図書館と人、本と人、人と人を繋ぐことで未来に向けて情報発信の基地となることを望みます。 ……【資料の保存と未来への継承】
- 3 図書館開館百周年の記念すべき時にあたり、鎌倉の図書館が「私たち市民の図書館」であるという社会的役割を確認し、私たち自身が自主的に関わることで、子どもから大人までさまざまな世代や地域の交流の場として発展し、利用しやすい楽しみにあふれた図書館にしていくことを目的に、この事業を実現するよう望みます。 ……【地域文化の育成と発達の促進】

< 記念事業の具体案 >

1 事業の企画運営について

- (1) 実行委員会方式をとり、委員は公募とする。
- (2) 記念誌発行については他に専門委員の参加を要請する。
- (3) 記念事業については実行委員会の中に分科会を設けることとする。

2 事業内容について

私たち市民が図書館との関わりをより深められるような下記に挙げる事業展開を望む。

特に(2)については、情報の集積地としての図書館の役割も再認識できるような催しの工夫と、単発でな

2007年に始まった準備委員会は2年間で延べ44回を数え、2010年度からは図書館史に詳しい2名の専門員を加えた実行委員会が発会して百年史編纂のための資料調査や執筆作業が始まりました。5名の市民委員のうち、和田実行委員長はじめ4名は当会々員であり、TOTOMOは図書館とタッグを組んで終始積極的に百周年記念事業に取り組んできたといえましょう。

また、百周年を広く市民の皆さんにアピールするべく、2007年には市民提案型協働事業の募集に手を挙げ、2008年からの3年間、百周年イベントとして多岐にわたる図書館振興事業を実施することができました。（ただし、市の「協働」への取り組みはまだ多くの課題を残しており、解決には時間がかかりそうです）

百年史等の発行、式典や記念展示会を無事に終えた今、思いがけない厳しい局面や紆余曲折はあったものの、図書館協議会で示された答申内容に沿って図書館がぶれることなく諸事業を完遂し、当会もまた答申作成段階から現在に至るまで図書館の応援団としての責任が果たせたことを、誇らしく嬉しく思います。

3・11 東北地方太平洋沖地震とそれに伴う原子力発電所事故による災害から、復興への長く厳しい道りが続いています。近藤誠一文化庁長官が述べられたように、「記憶遺産」を構築する文化都市鎌倉の図書館ができること、しなければならないことは少なくありません。友の会として、そのために力を尽くすことができればと願います。そして、そのはじめの一步は、会報冒頭の教育長のご挨拶にもあるように、失われたら二度と目にすることができない貴重な郷土資料収集のための「鎌倉市図書館基金」の創設と、意義ある運用への努力と考えます。来賓の皆様はじめ多くの方から今回たくさんのエールをいただいた鎌倉の図書館、職員、関連市民団体が、今まで同様連携を深め、信頼関係をもって互いに協力することができれば、100年先を見つめた図書館づくりや街づくりは必ずできると信じています。 （年表：目黒 文：阿曾）



TOTOMO

COMING NEXT! 事務局からのお知らせ

猛暑と節電の夏もどうやら峠を越したようです。読書の秋ももうすぐ!!
この秋はどんな本を読みましょうか。

おはなしひろくせん勉強会

日時: 9月15日(木) 10:00~12:00

場所: 福祉センター

テーマ: 「美術関係の絵本」 美術館でのおはなし会のお誘いがあります。まだ、具体的には決ま
いてませんが、事前学習ということで、子どもたちとアートを楽しむ絵本をご紹介します。

お問い合わせは、黒瀬(Tel&Fax 0467-22-8545)まで。

読書会

日時: 10月28日(金) 10:00~12:00

場所: 大佛次郎邸 (鎌倉市雪ノ下1-11-22)

10月のテーマ本は、サマセット・モーム著『マウントドレイゴ卿/パーティの前に』(光文社文庫)と
『月と六ペンス』(新潮文庫・光文社文庫ほか)です。

いつもと気分を変えて、秋の花が咲く庭園を見ながら語り合しましょう。お気軽にご参加ください。

お問い合わせは、三浦(Tel&Fax 0467-25-2659)まで。

デンマーク発「にぎやかな図書館」の話

東日本大震災の影響で、延期になっておりました。吉田右子さんの講演会を開催いたします。
前回お申し込みいただいた方には図書館から個別にご連絡を差し上げる予定です。

日時: 10月30日(日) 14時~16時

場所: 鎌倉市中央図書館 3階多目的室

お問い合わせ: 中央図書館 (電話0467-25-2611)

吉田右子さんは、最近北欧を再訪されたので、新しい情報を盛り込んだおはなしが伺えます。

神奈川の図書館を考えるつどい

8月10日、黒川雅夫副知事、富田輝司教育局長に面談の上、「神奈川県図書館行政について(要望)」
を提出しました。詳細は次号でお知らせします。

お問い合わせは、阿曾(Tel & Fax: 0467-45-5731)まで。

図書館友の会全国連絡会

8月1日~3日、兵庫県尼崎で学校図書館問題研究会全国大会が開催され、『ナイター屋台』(展示ス
ペース)で図書館友の会全国連絡会の活動をPRしました。

お問い合わせは、阿曾(Tel & Fax: 0467-45-5731)まで。

編集後記 *****



充実した100周年記念行事と、猛暑の夏が終わります。次の読書会は、大佛次郎邸のお部屋をお借りして
行う予定です。読書の秋です!皆さまのご参加お待ちしております。(A.S)

今月は、図書館百周年記念号です。式典当日会場に来られた方も来られなかった方にも楽しんでいただ
ける会報になればいいなと思って作りました。TOTOMOメンバーが編纂に参加し、力を尽くした『百年史』も、
ぜひお読みください。非売品ですが図書館で借りられます。(M.S)

題字・巻末カット: 小島寅雄

2011年8月31日発行

図書館とともだち・鎌倉(代表:阿曾千代子)編集:黒瀬・林・目黒・杉崎・齊木

事務局: 〒248-0005 鎌倉市雪ノ下1-14-34(黒瀬)TEL/FAX 0467-22-8545

HP: <http://totomo.sakura.ne.jp>

